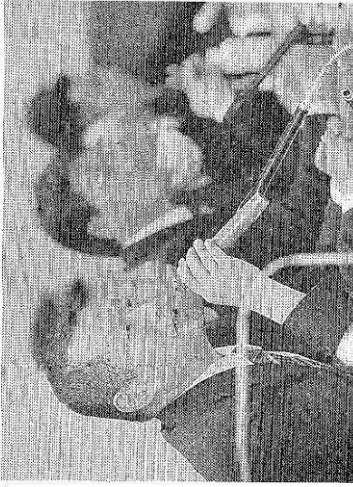


大川小控訴審初弁論



控訴審第1回口頭弁論を終え、記者会見する原告団の今野団長(左端)＝29日午後4時15分ごろ、仙台市青葉区の仙台弁論士会館

「組織の責任認定を」

遺族 事前防災の注視歓迎

石巻市大川小津波訴訟の今野浩行さん(55)は「現場にいた教員個人の責任を超える事案と判断し(震災当日不在だった)校長らの責任を議論のテーブルに載せた」と高裁の指揮に手応えを感じた様子。「最後までもろくない」と覚悟を口にした。3年たった長女未奈さん(11回)⑨を亡くした呂野英昭さん(54)は「ぜひ自分問難しなかったが。この『なぜ』は危機管理マニュアルの不備と密接な関係が

ある。大川小は法律で求められた対応を全くしてこなかったと批判した。「学校の先生特に校長は市民より高い危機意識が求められる」。3年の一人息子健太君(11回)⑨を失った佐藤美奈さん(56)はそう指摘し「学校運営の方法などが審理される見通しになり、うれしい。マニュアルの不備が明らかになるのではないかと期待を込めた。亀山雄平校長は「犠牲になられた方々と遺族に改めて深く哀悼の意を表する。代理人、県と協議しながら真摯に対応したい」、村井豊昭知事は「学校設置者の市、代理人と協議しながら主張すべき苦渋はしっかり主張していく」との発言を出した。

平成29年3月30日 河北新報

子どもを亡くした思い 遺族が法廷で語る

中村次男さん(42)



3年たった一人娘の香奈さん(11回)⑨を失った

真実を正直に話して

おなす一つ選ぶにしても、香奈の遺言が一番。香奈中心の生活で、知面は遺族は遺言の話を聞いています。何事も話を聞かれました。返事がないのに、声かいても返り続けていたのを覚えて

悔しく思いました。わざわざこの場にこられたのを感謝です。市や市教委は真実を正直に話してほしい。震災から6年。娘が生きていたら何歳か高校1年生。これからは楽しい年頃でした。毎日涙で残念を悔しい。

今野ひとみさん(46)



6年たった長男大輔君(12回)⑪を失った

息子に「謝罪」報告を

人の心と手を津波でなく、息子は生かされました。少も体も空っぽですが、一つはけつと心に響いている言葉があります。「津波が来るから山登りばかり。震災当日、息子の大輔が校

自分を責め続けました。子どもでさえ、山への避難訓練をしないのはおかしい。大川小は間違っていた。山に逃げたら助かった。もう安心して先生たちに謝罪して子どもに話してあげたい。それがひとつの願いです。

佐藤和隆さん(50)



6年たった三男雄樹君(12回)⑫を亡くした

子どもでも津波予見

息子の雄樹は「ここに居たら死ぬ」と母に泣きながら必死に訴えたいと助かった同級生から聞き取った。子どもでも津波を予見していました。行政や教員関係者が今も津波

が実施していた避難訓練を、避難マニュアルも未整備だったのか。あの日、先生たちは避難訓練をたどったのは、事前の備えを怠ったからではないか。あの日の子どもたちの姿を思い浮かべ、子どもたちの命を中心に考え、避難訓練の準備を進めてほしいと願っています。

紫桃隆洋さん(52)



5年たった次女千重さん(11回)⑪を失った

学校防災向き合って

一番は津波の予見可能性に議論が絞られましたが、それだけでは不十分。控訴審は学校の在り方にまで踏み込んでほしい。真真正正被害の発生が懸念される中、当時の校長防災マニュアルをきまらざる整備せず、津波避難訓練も実施しませんでした。震災当日、津波を予見したのに先生が睡り込んだ事実は、学校防災上、危険な問題をさらしている。管理体制の不備が当日、何

もできず、大川小の悲劇につながったのではないだろうか。高裁判決は学校防災に向き合い、第二の大川小を築いてほしい。確かな内容であってほしい。思わなかった。娘の千重の生き残りが未来の希望につながる判決を期待しています。

鈴木美穂さん(48)



6年たった長男登喜君(11回)⑪を亡くした

市教委の対応不誠実

あの日から登喜君の亡きから、もう5年、本当に死んでしまったのか確認を誠実におこなってほしい。区切りも節目もありません。意識と感情のスイッチをオフにしてあげれば、日常生活を送れません。震災の3月後、市長は信託という言葉を交わしました。市教委の対応は不誠実で、話し合いを重ねることに不信感が募る一方でした。遺族は深く傷ついています。一連の震災への事後対応の注視が遺族と市教委に求められています。

唯一生還した男性教師に伝えた。いつかは先生が亡くはない。先生が睡ること、今後の学校防災に生かされ、救われる命がたくさんあります。犠牲者への供養として、立ち上がる勇気を持ってほしい。